WASON
HQ
1104
J74+

遞信省認可
明治二十年三月廿六日刊行

女學雜誌

毎土曜日發兌
一册正價五錢
府内無郵送税

第五十七號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 57. March 26th, 1887.

第五拾七號

EDITORIAL:—Nurse Girls.

LEADING ARTICLES:—Love, the Motive Power of Woman's Labour, by Rev. Mr. T. Matsuyama (Concluded); Education of Woman (translated), by Dr. Spinner.

MISCELLANIES:—On Jealousy; How to have Boys or Girls.

BIOGRAPHIES:—Lucy Hutchinson; Mrs. Eureka (Concluded).

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社說 子守女の論

●論說 松山高吉君演說(婦人百業の基本)筆記(三)○獨逸國學士スピンナル氏女子教育說

●叢話 悋氣と云ふ事○隨意に男女を産するの秘訣

●佳傳 ルシー、ハッチンソン夫人の傳○ゆりか物語(完)

●寄書 配偶を擇ぶ者の爲に一言す(中山やす)癲疾を減ずるの策(杵築ふく)改頁論者に告ぐ(竹中すゑ)

●新報 十八件 ●廣告

●珊瑚の珠 (第二十六回)

○紫式部は幼より其身秀で父もわが子ならざるをうらみける程なりしかども文讀むことを召し仕ふ者にもつゝみて一と云ふ文字をだに知らぬものゝ樣にして過し上東門院に史記を教へ參らする杯も太く忍びける趣其日記に見へたり同じ世に清少納言はさえがり口かしこくて男を者の數ともせず大進生昌といへる博士をさゐなみけるなど今思ふにも惡くげにて後に落ぶれけるなど聞くにも親しむ人もなかりけるぞうべなり(續畸人傳)

○チトコムブの書に云く夫を擇ぶには先づ彼に眞正の愛情ありやを問ひ次に彼に確乎たる氣質あるやを尋ね其後彼の氣風をとひ最後に位置身代などの何如を考ふべし

○ルーテル曰く全世界の萬物中温順なる婦女子の如く優しきものはあらざるべし

○ホエートレー曰く婦人は猶ほ葦の如きか軟和なる微風にも尚ほ屈曲すると雖も然とも暴風の間に折るゝことなし

○今俗間深窓に養ひ侍づく娘を箱入娘と云ふは竹取物語に竹取の翁かぐや姫を竹の中に得て美しきこと限りなし最と幼なければ箱に入て養ふと云より起る(幽遠隨筆)

女學雜誌第五拾七號
明治二十年三月廿六日

社説

○子守女の論

大凡ろ其子を宜きに教育せんと欲するには第一に其母親たるもの丶責任甚だ重大なることを覺悟せざる可らず（論は本誌第五十二號の社説に見ゆ）次にハ母親に代りて其子を養育する乳母の撰び方に注意し專ら其人と爲りを察して愛子を托するの心得なかるべからず（論は本誌第五十四號の社説に見ゆ）此二件は育兒の上に於て當今共に甚だ大切の關係あり吾人は讀者か常に之を記臆して輕々しく看過し玉ハざることを希望すると共に今更に一事の併て注意を請うべきものあり即ち前號に於て既に其一端を述べ置たる子守に關するの事なり

抑も人の尙ほ幼き時は之を譬ふるに猶ほ白糸の色なきが如し氣質未だ定らず行狀も亦一定せず善惡の何れにも淡泊にして其純なること殆んど白糸の白きよりも尙ほ白きが如くなれバ只但爾來之に交りて其心を感化するもの丶何如により或ハ黑くとも爲り亦赤くとも變ずるものなり幼年間の教育の甚だ大切なるは即ち之が爲にて母、乳母、子守等の責任の尤も重大なるの由縁ハ全く之あるに依るなり。蓋し子供ハや丶人心の開き初むるの當日より其目に見耳に聞く所を事々に眞似て以て其智慧を發達せんとするの天性あり人笑へバ密に笑ひ人歩めバ亦自ら之を試み貌附の異樣なるものを見れバ己も亦た特更に顏色をしかめ眇目の人を見て吾乍ら一眼を閉づる如きハ子供の氣質を察するもの丶能く承知する所ならん之れ實に其天性にして人智進化の上に甚だ大切なるものなれバ凡そ子供を教育せんと欲するものハ則ち此天性を利用し之が目前に尤も善良なる教を示し之が耳中に尤も淸潔なる談話を聞かせて以て子供の心を感化することなり。然れバ諺にも氏より育ちと云ふことあり又王侯將相豈に種あらんやと論ずる人あり必竟血脈によりて人の氣風を遺傳するハ固より爭ふ可らざるの事實なれども既に生れ出で丶後に耳目の間より遺傳する教育の勢力ハ之よりも更に强大なるが故に血脈の關係ハ遂に教育の効能に及ばざるなり。此故に堯と云ふ聖人の子にも愚人あり頑狂の父にも尙ほ舜の如き賢兒あるのみか古來日本支那の歷史を見に豪傑に二代なく儒者に三世なく文武に優たる父にも昏愚尩弱の子多かりしと也然に更に明に此理を證するはかの父母を同する同胞の性質に非常の相違あるの實例なりとす例へバ

柳下恵の如き義人の兄弟に盗跖の如き悪人あり聖なると周公の如き人の兄弟にも尚ほ管叔蔡叔の如き邪人ありとは古來甚だ有名の實事なるが近く吾々の社會を見渡すに兄弟姉妹切ては其顏色の似る程なれども心の相似たるは甚だ稀なるを見ん若し氏と種とに依りてのみ氣質を遺傳するとならば同胞の人々は皆大抵一樣の心にてあるべきを實際全く之に反對するを見れば即ち人の氣質は血脈の上の遺傳にのみあらずして反て多く其教育によるとを知り又教育の中尤も勢力あるは即ち彼の何事にも人事を眞似する幼年の間にあるとを知るなり。然るに此幼年の間に於て子供が何人の行爲を尤も多く眞似すべきやと云はゞ無論平常その尤も親しくする所の人なるべきが偖て其の尤も親しくする所の人を誰ありとすると云はゞ無論其の母あり、其乳母なり、其子守ありと云はざる可らず吾人が子供の教育の上に於て此の三の者の責任重大なるとを數多び論述するは一に此理由あるが故也

此三者の中母と乳母との事は既に之を述べたり然らば最後にある彼の子守なるものに付て吾人の考ふる所何如んと云ふに當今之も亦た甚だ歎息すべき景況に存するを見るなり抑も子守とは大畧十一二才以上十五六才以下の小女にして人に雇れて子供の看護を托さるゝものあり其出でゝ人の家に行くものは多くは貧家の子にして大抵教育なく目に一丁字をだも知らざるは勿論恰かも女か男かと疑ふ程の亂暴者多きを常とするなり。故に子を負はされて外に出づれば勝手氣儘に自分の遊を爲して毫も背上の子に頓着せず泣く時はいよ／＼手暴に搖かし泣て止まざる時は臀邊に一抓を試み或は竊買の菓子を彼の口に壓入て身も亦た餘れるを口に含み或は自分の仲間と相會すれば子供を卸して其邊に放却し己等たゞ嫁事飯事の遊に餘念なく子供の饑渴に叫ぶを顧みざる如き、事多く無心に出ると雖も其亂暴なると固より愛子を托すべきの行にあらず子供は之が爲に是と云ふ程の特別なる氣質を見習ふには及ばずとも泣くときに叱られ訴ふる時に制さるゝ不規則の取扱を受て本性次第に曲り偏屈强情の氣儘者となるべきは勿論肝腎の年代に於て何事の眞教育をも身に受入れずして其儘に生長するの大損あり育兒の上に於て莫大の失策と云ふべき也

抑も乳母を置くの事に關しては吾人素と之を好まず事情止を得ざるにあらざれば母親たるもの常に自ら其子を教育せざる可らずと思考するが如く、夫の子守女の事に關しても亦同樣の感更に切なるを覺ゆるなり凡そ人に雇はれて子守女となる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ものは大抵貧家の娘にして教育の素なきを多しとすると前段に述べ置たる如くなれば斯るを用ひ其子を托するの宜しからざるは言を待たず然らばとて世に善良なる子守女を得んとするも元來子娘は素と人の子を托さるべきにあらざれば何如やうにすとも大抵看護の任に當るべき覺悟ある可らず之を雇ふは到底乳母を置くの損よりも更に大なるの失策なるべきが故に吾人は遂に子守女なるものゝ世に存せざることを望むもの也。但し當今の實際中々にかゝる希望を實行し得べきにあらざれば成べく温和なる娘を撰びて子守女とする事、及び母親は暇あるとき此子守女を教導するとを心掛け以て間接に其子に利益を及ぼすの工夫を爲す事、等を忠告するのみを以て滿足せざるを得ず。然れども凡そ眞に其子を養育せんと欲するときは個々の母たるもの皆な自ら之を教ゆるの覺悟あるを以て第一とし、若し事情之を許さゞれば一村一郷申合の上幼稚園を設け相當の入費金を集めて良好の保母一人を雇入れ之に其村鄕の幼兒を委托するを以て第二とし、此等の策到底行ふを得ざるの後に於て先づ乳母を置くの考を起し、次に子守女を雇ふの窮策に出るの順序を爲さゞる可らず

昔し孟母の家市に近ければ其子商人の眞似を爲し墓地に近ければ葬式を倣ひたり斯ては相成らずとして學校の近邊に家を移せば則ち居起應對の禮敎を見て亦自ら之を學びたり此子後に孟子と爲りて第二聖人の亞に位するに至りたるは必竟孟母が家庭の教育に注意する深きの致す所なりと云へりこれ古今に著名なる事にて尋常の母親には有觸れざる行と思ふもの多くあらんが試に西洋婦人が其子を養育する模樣を見れば如此き心得あるもの固より左程に少しとせず現に我國に在留する洋人等の中に於ても其子の教育に差支ゆればとて夫婦愛を割て別居し一心を凝めたる事業を半途にして歸國する如きものゝ多きは實際吾人の屢ば見聞する所なり吾國の婦人母氏たるもの少しく鑑みる所なくして可ならんや。抑も蓄財の方法中尤も賢きは其子の躰内に寶を積むに若かず殖産の方法中尤も利益あるは立派なる子供を造り出すに越たるはなし然るに世人一錢二錢の儉約を爲すの法を知て其子に德を積むの術を悟らず田畠に穀菜を作るの業を講じて家内に英兒を擧るの道を思はず尤も歎ずべきとと云ふべき也

The destiny of Nations lies far more in the hands of women, than in the possessors of power, or those innovators who for the most part do not understand themselves. We must cultivate women, else the new generation cannot accomplish its task.

Froebel.

●論説

○東京婦人矯風會大會演說錄

松山高吉君演說（婦人百業の基本）筆記（三）

婦人方はその長所に從ひて働をなさらバ業も成易く功も立易く實際の利益も亦社會ェ多からんと存じます。文明國の婦人が或ハ社を結び或ハ一個人にて種々社會の爲に善ことを作ました働かたを見ましても皆然るやうに思はれます。近來わが日本にても婦人の有志者がいろ／＼ある集を設けられて慈善會とか踏舞會とか交際會とか各樣の稱が聞えますれど未だその會よりして愛が流出て哀なる下等社會を潤し之に幸福をあたへ之に喜樂を得さする樣なことが見えませぬ。身自らが此世の樂みに飽餘り消閑半分にて有餘れる金を寄集めて偶々或る個所へ惠んだとて之で慈善など丶思ふハ大なる誤りで御座ます（喝采）。同胞の辛苦を見てハ己が辛苦の如くおもひて我富貴の樂も樂しからず。世の不幸者に遇ては我その不幸に罹れるが如くおもひて吾身に纒ふ綺羅錦繡も肌に着ざる心地して全心全力を注ぎて不幸者を助け己が尊貴をも學識をも忘れて貧賤の友となり、其艱辛を分て自ら負ふが如き人をこそ慈善者ともいひ、斯る働が實際に行れてこそ慈善の會とも申されるで御坐ましうと存じます（喝采）。我が國にはまだ婦人方の何の會にも愛の土臺が置てない樣で御坐ます。愛の土臺が置らぬ以上ハホントウのよい働はあらはれまいと存じます。歐米の婦人が種々の事に力を竭し色々な會社もありますが大抵この愛が基本になつて在る樣で御坐ます。我が國にてハ昔ハ固より今も尙ほ見ること出來ぬ一事を擧ましようが、先年私の朋友が米國へ遊學にゆき桑港より音信をおくりて其三次喫驚したことを知せました。その驚たる一ハ或夜貴婦人に伴はれて禁酒會にゆきしが其宏壯美麗なりしことで有ました、只壯宏美麗に驚いたわけにあらず桑港にハ他にも隨分この位な家ハ無にあらねど之ハ利の爲にせしにあらず私の快樂の爲にせしにあらず全く慈善の爲に婦人の熱心より成立しものである故に實ハその慈善心の盛んなるに驚きしなりと申して有ました。又一ハその宏壯美麗なる建物の中に充滿たる醉漢で御坐ました、この醉漢ハ歌ふもあり怒るもあり笑ふもあり喃々いふあり而して惡臭フンプンとして流石の日本人なる我も堪がたき程でありしが偖も文明國にも尙ほ斯る者やあると驚いたそうで御坐ます。第三の驚きハ稱嘆に堪ずして物もいはれぬ程驚たそうで御坐ますが夫ハ何ぞといふに其醉漢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の中を周旋する貴婦人だちて有ます、皆歴々の細君や令孃だちにして此中に知事の令閨も彼の有名なるムウデー氏の細君も居れしと云。此卑からぬ婦人方が日本人なる我すら堪がたく思ふ醉漢の中に立て或ハ勸話をなし或ハ此等の者の悔悟せん爲に上帝に祈り、又醉て苦む者には藥を與へ醉倒たる者ハ之を別室へつれゆきて臥しむる等その扱ひの深切叮嚀なる其動作の活潑なる其精神の仁愛なるに驚かざるべきや實に驚き入たり」との事で御座ましたが、私も此音書を見て賛嘆置あたはず、ア、歐米婦人の尊貴ハ因由なきにあらず我が國の婦人にも此精神を持せたらバと存じ此頃よりして婦女の敎育と云とに心が傾きました。婦人の尊貴ハ華美なる衣服裝飾にあるにあらず、高尙なる學術辨論にあるにもあらず、俗物の慕ふ爵位富貴にも非ず、眞誠の直內ハ純潔なる愛にあると存じます(喝采)。愛がありてこそ學識もあまねく働きて世間に利用し富貴も普く働きて社會に裨益するならんと存じ升(喝采)。愛が土臺に置らぬ間ハ幾個よき名の會が起ても福利を一般に及すとが出來ませぬ。たゞ類を以て集る其會だけに止ることで御座ませう。蹈舞會ができて或ものハ踊り狂て樂めども或者ハ之を觀て怨望し其身の卑賤を嘆じて一層苦難を加ましよう。交際會が始りて或者ハ談笑して快氣なれど或者ハ之を聞き、て其身の語ふべき友なきを悲しみ一層無聊を增て有ませう。之を歐米婦人が己が樂を割て樂しむとの出來ぬ者に與へ、哀むべき者の苦みを我が身に負て衆と樂を共にし衆と苦みを共にすると比ましたら如何で御座ますう。己が類ばかり樂みて他の類の者を怨ませ其苦を增せるよりも寧ろ樂をさいて多數の人を樂ませ其苦を救ふ方が眞實なる樂もあり亦その樂ハ高尙で御座ましよう(喝采)。全躰、文明といふとも或部分だけでハ日本の文明とハ申されませぬ。幸福といふとも或小數だけでハ日本の幸福とハ申されませぬ。文明の餘澤が一般の人民にも行渡り幸福の餘潤が大數の同胞にも注れてこそ始て文明の日本、幸福の日本と申されましよう(喝采)。それにハ是非とも我國にも歐米婦人の如き愛に充されたる婦人が續々いでゝ歐米に顯るゝ如き慈善の事業が續々起らねバならぬと存じます(喝采)。然バ今わが日本にて尤も必要なるものハ外形の贅澤に似たる文明の事よりも無形の實利ある愛の一點であらうと存じ升(喝采)。此愛が高貴の婦人方にも智識ある婦人方にも入込バ其勢力ハ立刻に顯はれて貧苦に呻吟する破屋の人を慰め依估なき孤兒の啼泣を止め風俗を害し德義の何物たる

を知ざる愚漢をして其恩に感泣せしむるに至り下等社會ハ始めて富貴の人の世に必用なるを知て眞實より之を尊敬し無學社會ハ始めて知識の貴ぶべきを悟りて稍や文化の民に移らんとする樣になつて來ましよう。若し婦人方が斯る感化を日本社會にあたへなされたならバ實に愉快なことにして其功績も亦いかで男子の下に付ましようか。國會に立て國事ハ論ぜずとも廟堂に出て政事ハ語らずとも國を助け益する功ハ十に七八まで占るならんと存じます（喝采）。斯樣なわけ故に私ハ切に婦人方に望む所ハ何事をなさるゝにも先第一に愛を基本に立給はんことで御坐ます。殊に矯風會員の方に之を望ます。願くハ此會に堅固なる愛の基本を置きその愛に基づきて百般の事を執行ひ下され度ぞんじます。然バその作るゝことハ自から宜しきに合ひ舊來の弊風を除去にも新入の事物を取用るにも誤ること無らんと存じます。又たとひ千障万礙おこる共能く忍んで望を果すの力が出るで有うと存じます。それ聖書に愛の德を述て『凡そ事信じ、凡そ事望み、凡そ事忍ぶなり』と申して有ます。又『愛ハ寛容をなし人の益を圖るなり、愛ハ妬まず、誇らず、高ぶらず、非禮を行はず、己の利を求めず、輕々しく怒らず、人の惡を念はず、不義を喜ばず、眞理を喜ぶ』とも申して有ます。誠に愛ハ貴き者で御坐ます。此句を見るに付ても百業の基本ハ愛を除て他にハ有ますまいと存じます。前にも愛ハ六ケ敷ことも容易に成遂しめますと申しましたが此聖書の句を味へて御覽なされたならバ實に然樣だといふことが分りましよう。愛ハ凡の事を誤らしめず且困難をも容易ならしむる計ではなく人にも我にも樂をあたふる者で有ます。故に愛の温度が增に從ひて快樂の度も增加る者で有ます。大陽の光線がさすと草木までも喜色を帶るが如く愛の光線のさす所ハ悉く喜色を呈はす者で御坐ます（喝采）。又草木ハ大陽の熱によつて成長しますが社會の人類ハ愛の熱によりてその幸福を開發するもので御坐ます。故に温熱ある愛ハ與る人と受る人も共に益を得ます（喝采）。斯る貴きものを上帝ハ深き思召ありて婦人方に尤も多量に賜ふて有るからにハ之を空しくしてハなりません。聖書にも『神の惠を徒らに受る勿れ』と申しました。若し我が同胞の姉妹がたも此貴重なる賜物を能く用ゐなさらバ愈々長大になりて我と人との福利を增し加へましよう。これ私が婦人百業の基本に愛を說たる由緣で御坐ます（喝采）終り

A woman is more considerable in affairs of love than a man; because love is more the study and business of her life.

Washington Irving.

○婦人の教育

獨乙國學士　スピンチル

左に掲載するは我國在留の學士スピンチル氏が當今の女論の方向に掛念して吾人の爲に特に起草ありたるを向軍治君が譯述ありたる者あり

教育とは勉めて人を不完全の地位より導き出し漸く以て眞神に近き位地へ案内するものなれバかの赤子初て生れ出でゝ蓐中に高く叫ぶの時より既に教育あるものゝ行れるべきを知るべし。凡そ赤子にハ宜しく其眞に必要とする養物を與へ亦た之を取扱ふに万事を鄭重温和にし決して之を騷がし又は激さするヿあるべからず但し此時より早く忍耐の習慣を得さするやうに取扱ハざれバ他日之をして貪慾、自恣、强情等の悪質を生ぜしむるの基を造るべし。昔しアモスコメニウスと云ふ教育の大家ハ小兒の一才より七才に至るまでを母親の學校の年代と名づけて之よりも早く通常の學校へ通ハするヿを不可としたり蓋し此際學校の授業を尊しとせずして家庭の教育を以て尤も肝要なりとするなり而して此の最初の年代中は男女ともに同様の教育を受くべし此年代を過て後ち初て性によりて敎を異にするヿあり。抑も小兒の身躰ハ筋肉骨格の間に血脈循環し神系之を左右する唯一の塊物にあらざれバ諸の機械の如く只だ之を保存するを以て足れりとすべからず實に其身躰は即ち精神の宿る所なれバ健全の身躰に健全の精神ありと云ふ古代の希臘人及び羅馬人等が童女を教育するの原則としたるものに注意せざる可らず昔し此等の國人ハ專ら此原則によりて兒子を養育し躰力强壯にしてよく風雨寒暑等に凌ぎ得るものを得んヿを望み軟弱の小兒を盡く放棄したり蓋し一個人一家族若くは一國民の幸福ハ專ら身躰の健康に基するヿを信じたる也。若し吾人之と同様にしてかゝる健全の兒を得んとせバ能く人躰自然の性質を察して小兒の需要する所を適度に滿足するヿ必用あり始ハ先づ母親の乳を與へ次に淡泊の食物を與ふべし蓋し人間ハ猶ほ一株の植物の如し肥料多きに過れバ爲に生長せず少きに失すれバ枯死すべし要するに躰内に存する水酸炭窒の四元素消費さるゝに隨ひ之を補ふヿハ大切なれども其上に餘計の物を與ふ可らず故に小兒に與ふる食物の量誠に愼しまざる可らざる也特に女の身躰の發育するに際して食物の量過度なるときハ其害男子に於けるよりも甚しく之が爲に怠惰となり業に拙く精神衰弱して愚魯に陥り遂に悪事に傾くに至るものあり　（未完）

Earth has nothing more tender than a woman's heart, when it is the abode of piety. Luther.

●叢話

○悋氣と云ふ事

妻は夜深きまで寢もねやらず夫の出で行しかたをうちながめ軒端に近くさす月にわが影をのみ伽にして物さびしげに琴ひきよせ

風ふけバをきつ白浪たつた山夜半にや君がひとりゆくらん

とうたふを聞ては夫の心張り裂くやうなり庭の小草より躍り出で丶ひしと抱き着き吾が最愛の妻たゞゆるしてよとハ申すなるべし惣じて女たらんものハ皆な之れ程に思を制して夢にも悋氣の容色などすべからずとは吾も人も女方に教ゆる所の昔し語なり然れど悋氣を其儘に現はす可らずとはたゞ女にのみ云ふべき事にあらずして亦男子にも同樣に勸告すべき所のものなり詩經と云ふ書の螽蟖の篇にイナゴは嫉む心なき故に子供多し婦人も悋氣の心ありては子孫の繁昌覺束なしと歌へり然るに之は周公旦と云ふ男子が筆に成りたれバ婦人をのみ螽蟖と爲さまく欲するなり若し之をかの謝太傅の妻に書かせたらんには世上の男子亦皆なイナゴたるべしと歌ひしと必定なり女は素と思を隱くす力の弱ハければ扨てハ最と深う悋氣の心ある歟の如く見ゆべし然れど若し胸中を穿ちて明に心裡の微を發かバ悋氣の深きとハ反て男子に多く無理なる悋氣の多きとも亦男子の方にあるを知らん

抑も悋氣とハ素と決して惡むべきの情にあらず己が愛する所の人の思吾が上に落ちずして別に散ずる所あらんかと疑ハる丶まゝに彼の人の愛の我に滅ぜんを怨み吾が心の愛の彼の人に通ぜざるを歎き狹の胸の中クワッと發熱し愛情餘りて少しく惡氣を生じ來る實に幼氣の思の掬すべきものあるに由るなり。左れバ悋氣あるは素と愛あるなり愛の心いよ〳〵厚くして悋氣の變を生ずるの場合も亦ます〳〵多からんか故に悋氣多き者ハ或は心狹きか人を信ずるの誠薄きか到底一つ二つの欠はもとより之あるべしとハ云へ悋氣その物たる元來決して棄つべきの思にハあらざるべし。然れども愛情の切なるに加へて若し彼の人を信ずるの誠われに在らば則ち愛の心彌よ深うして信任の念ます〳〵あつきに隨ひ悋氣の思悉く消滅すべし之を相愛者の交りの上乘とハする也されバ全く愛なき者は則ち悋氣なし、愛ありて誠少きものは則ち悋氣あり、愛あり且つ誠ある者ハ則ち全く悋氣の思あるべからず之を悋氣有無の三等と稱して人々相愛の度數を計るの尺度となす。然るに當今日本の男子社會は果して其妻の信任を受るに足るの品行な

りやと云ふに十中の八九多くは然らず甚しきハ妻の外ょ密し女あるを以て男の働きと心得公然姦淫の遊を人に物語りて己の才力を誇るの愚人滔々として多し然らバ斯る夫婦の間に上乘の相愛を見んとを望むハ到底得べからざる義ょして妻が其夫の品行の完全なるとを信ずるの誠あらざるハ當然の事あり然らバ此誠ありて後ち初て達し得べきかの無悋氣の地位は我國當今の婦人の多數ょハ得て望む可きにあらず切ては其第二位たる多少の悋氣あるをこそ望むべしかゝる時代の婦人ょ對して悉く無悋あれと云ふは即ち悉く愛情を去るべしと云ふに均しかるべき也

事情如此なるにも關らず男子の我儘あると方外にて其悋氣の無理なるハ歎ずるに餘あり自らは亂暴の不行跡に家に歸るの道を忘るれども妻ハ一室に閉居して室外の男子と物語るべからずと嚴禁するの類少からず其身の愛情ハ四方の人に散ずれども妻の愛情ハたゞ其身中の燒點に集らんとを望み昔しフェードリアが其妻と別るゝに臨み

君かの兵卒と同行する時ハ恰も無人の如く持なし玉へよ但だ夜となく晝となく余を愛し余を要め余を夢み余を望み余を思ひ余を欲し余の事を考へては樂しみ猶ほ余とのみあるが如き心地して余が、、、、君に於ける如くたゞ余の魂とハなり玉ふべし

と云ひたる言葉のうち（余が君に於ける如く）の一句を除いてたゞ價なしに妻の愛を請求するもの也その無理も亦た甚しと云ふべし

故に老子と共に無悋氣の極秘を得て夫婦相ひ信任依賴し以てかの上乘の交に達せんとせバ男子先づ其行をつゝしみて婦に己が誠を信任せしめざる可らず此の覺悟あらざらん間は妻が少かの悋氣は必竟己を愛するの眞心と見て大に恕する所あかる可らざる也。然れども之ばたゞ女流に代りて男子の無理を責る迄に止る若し今ま女流に對して之を言ふ時ハ君等止を得ずして悋氣の小火を心中に燃やすとも夢之よりして舌を燒き口を燒きて以て雜言の焰を發す可らず寧ろ靜に琴ひきよせて想夫戀に思を通ハせ遙かにきこゆる鹿の音に無限の情を詠み出づべしこれ反て夫の心奥を刺し以て他日の眞愛を得るの道とハあるなり

○男女を隨意に產する法

子を擧ぐるは人世第一の喜びあれども又心の儘に男女の何れをか產たらんには更に何如程の樂あるべき左バ古來此望を有

て色々に其秘傳を研究したるもの多けれども近年に至る迄ハ確たる議論もあらざりしが此頃に至り先づ斯もあらんかと思はるゝ程の方法を考へ出せり」抑も蜂の卵を生むや初に生みたるは雌蜂となり後に生みたるは雄蜂に孵る又牝鷄の卵を産するも之と均しく初に出せるを孵せバ亦た牝鷄とあり後に生みたるを孵へせバ牡鷄となる又牡馬のサカリのつきたる時やゝ遲く牡馬に掛けさすれバ大抵牝を産せずして牡を産むと云へり。斯る實例の數多あるより茲に敎授サーリーと云へる人は牧畜家の人々に諭して若し牛馬の牡を得んとせバサカリの時の終に接れらせ牝を得んとせバ其初に掛けさすべしと敎へたるに爾來所々の牛飼馬飼等ハ此の敎に随ひて牝牡を心の儘に擧げ得たりと云ひて其證跡の判然たるもの少からずときけり」然らバ吾等人類の間に於ても何か此樣の秘傳ありて男女の子を擧くるとの心の儘とあるべき法あるべしと思ひ案じたる人多きとなるが英國の博士バックマン氏並に前に述べたるサーリー氏などの申さるゝ所に依れバ亦殆んど相似たる一種の秘法あるが如きを覺ゆ即ち月經止みたる後二日乃至六日の間に留まりたる子は女にして九日乃至十二日比に留りたるは男なり畧言すれバ月經後に起り來る婦人の發情期の初の時に出來たるは女にして終の頃に宿りたるは男ありと云ふとなり之は只だ架空の想像にあらず自ら試みて其の實効あるとを承知したるもの多ければ昔しマクベスが望みたる如く只だ男兒のみを擧んにも又ハ其上都人等が祈りたる如く只だ娘を得んと欲するにも雙方各隨意に望を滿足すべき方法の存するあるを見るなり

●佳傳

○ルシー、ハッチンソン夫人

ハッチンソン夫人は西暦一千六百二十四年に生るアルラン、アプスレー氏の女あり十八の年かのチャーレス一世と議院との爭ある比ピウリタンの方にて名高かりけるジョンハッチンソン氏に嫁したるが其交りは小說にだも見る如く最も面白き間柄なりけり夫人の日記に自ら記して云く

彼君の愛ほど最と熱く又人を信じ玉ふ情はあらじ其身の命よりも尚深く妾を愛して言ふべからざる程に優しく信切なる耳か妾を限なう尊敬して賜ふが中にも名望、宗敎、義務等の事に至らバ君ハ固より妾が一身によりて左右さるべき方にはあらず又痴情によりて妾が身に存する落度を見誤りた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

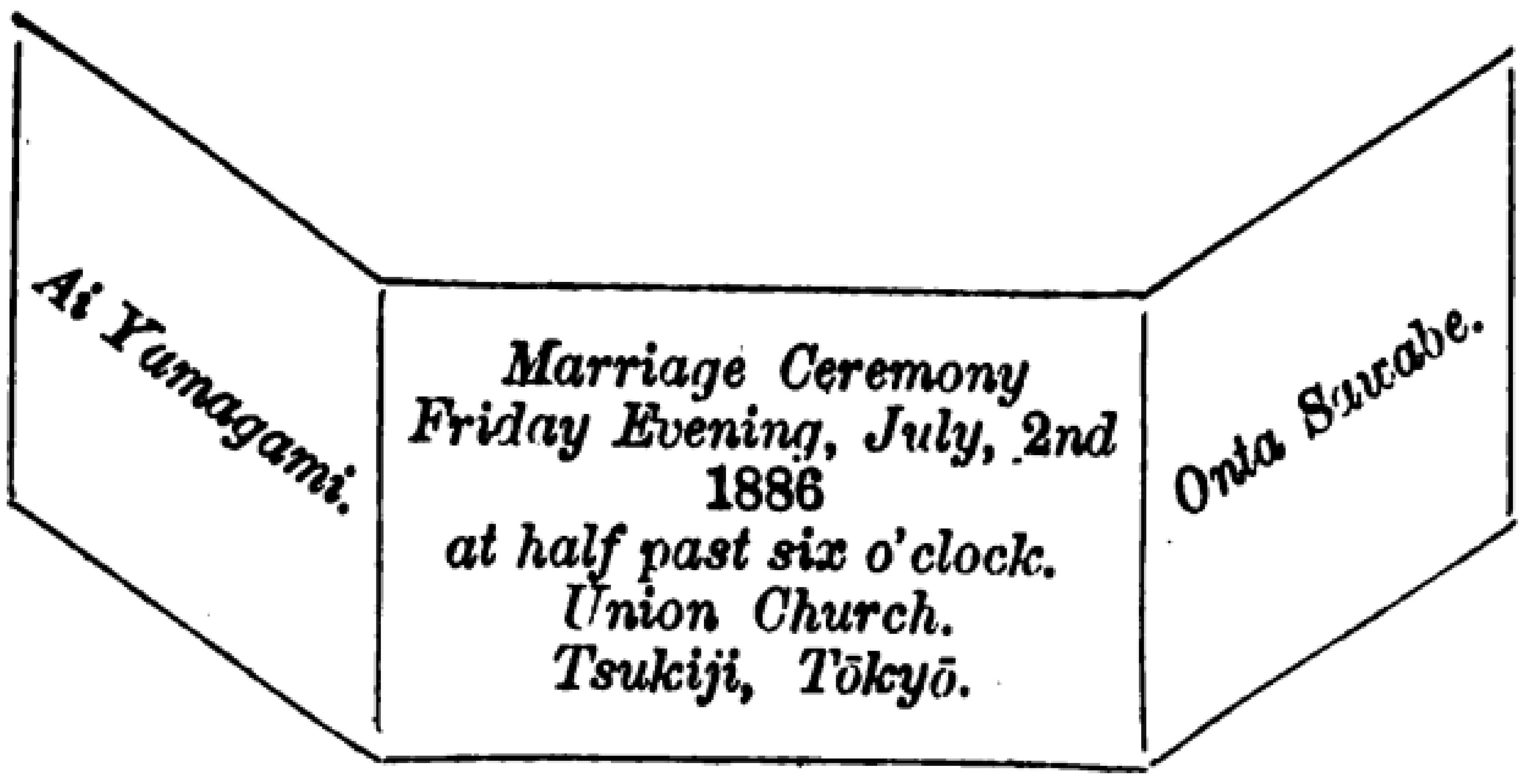
まふやうの事は決してあらず云々
ハッチンソン氏が夫人を愛するは其顔色にあらずして其の名望徳行にあり左れば結婚の日既に定まり祝式の宴最早備りて友人亦多く集り來り新婦の入來を相待つの折突然夫人に病ありり彼の尤も忌むべき痘瘡を患ひて幾日の間は命にも危き程ありしが漸くにして其病は療へたれども花の顔既に枯れて此世に又とあるまじくみにくき姿とはなれり然るにハッチンソン氏が心の愛は一層に増したれば床上の日を待かねて速に婚姻ありぬ時に是れ千六百三十八年七月三日なりき
斯て後は妹脊の交例じ少き迄に最とあつく眞の愛もて結びたらん夫婦の幸福を示すべき手本とはなりぬ既に戰爭となりてよりは夫人斷へず夫に附き隨ひたるがチヤーレス二世王位に復してハッチンソン氏牢に囚れるゝの日夫人は是非もろともにと願ひたれど聽届けられず再三強願して漸く牢獄を見舞ひ得るの許を受けぬ其後ハッチンソン氏またケント州のサンドウン、カスル(牢の名)に移されたれば夫人は又々請願して其子もろともに同囚とならんと申出られたれど固より聽さるべきにあらざれば其近邊に居を定め日々牢に通ひて夫を慰めたり斯て夫の赦免を請ふが爲にはあらゆる手段を盡したれどハッチンソン氏は素とピウリタン派の人にて特に共和の主義を確持し説を改めざれば朝廷の面々は皆な之が敵なり兎ても赦さるべき望はあらざれど左らばとて如何の罪に定めらるべきか未だ決せずありしに牢内の空氣不潔にして養生に宜しからず久しからずして病に伏したりけり夫人は日に〳〵通ひ行きて之を慰め乍ら獄室の制嚴しうして吾につれなく心の誠を現はしつくすべき便もあらざりしこそ何如に苦しかりけん最と哀れなるとなり

○ゆりか物語　(完)　　月の舍しのぶ

夕立はれて行く庭前のながめは樹木一新して洗へるが如く僅に落とすポツリ〳〵の雫は流れ去らんずる雨滴を動して上下に相戯れ既に乾きたるあたりは訪ふ人もなき靜が屋の客の案内やする閑居の夏雨の後は又一層に樂しかりけるかゝる景色を詠めて諸共に無言なる泥舟ゆりかは庭に對ふ座敷の椽側近く居寄りて各句を案ずるの樣なり乍ち門を開きて入り來る郵便脚夫一聲の名殘に四角なる書状を投じ込みて其が儘に出で行ぬ世を隱るの人は書を殊更に愛るとや況て此際のつれ〳〵なればゆりかは幼ならしう喜ぶ風して之を拾取り泥舟にさし出す。洋風の常とて送り手の名なければ倚更に待遠しき面色

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して忙はしく展き來れば只見る二個の小さき切紙あり一つは三つゝ折りて眞中に數行の洋語あり「千八百八十六年七月二日金曜日の夕六時半東京築地ユニチンチヨルチに於て婚姻式」と刷りたる文字も鮮かにて右には澤邊温太左には山上あいとは記したり又其一には東京築地……番館……氏宅に於て招待すとありて返辭を待つとの英文なり泥舟は急かに歎息の樣姿して力なげに之をゆりかに示しつゝ



ゆりお前は此の宴席へお出か

參りますとも

心消き泥舟は尙更に哀れを覺へて

然し私はお前を伴つて行くべき勇氣がありません

なぜで御座ますか私は尤も喜んで參りたいと存じます、又此の婚姻を眞の友情を以て尤も厚く祝し得るは私あらんと信じて居りまするものを

左樣か澤邊はお前の兄と爲つて山上さんはお前の昔しの朋友であれバ…實にお前の言ふ通りでありませう

悄然として傍なる机の上に開きたる詩集を取り。ザ、先刻の次を讀みませうとて兩人近うあり代るゞ口ずさむを聞けば

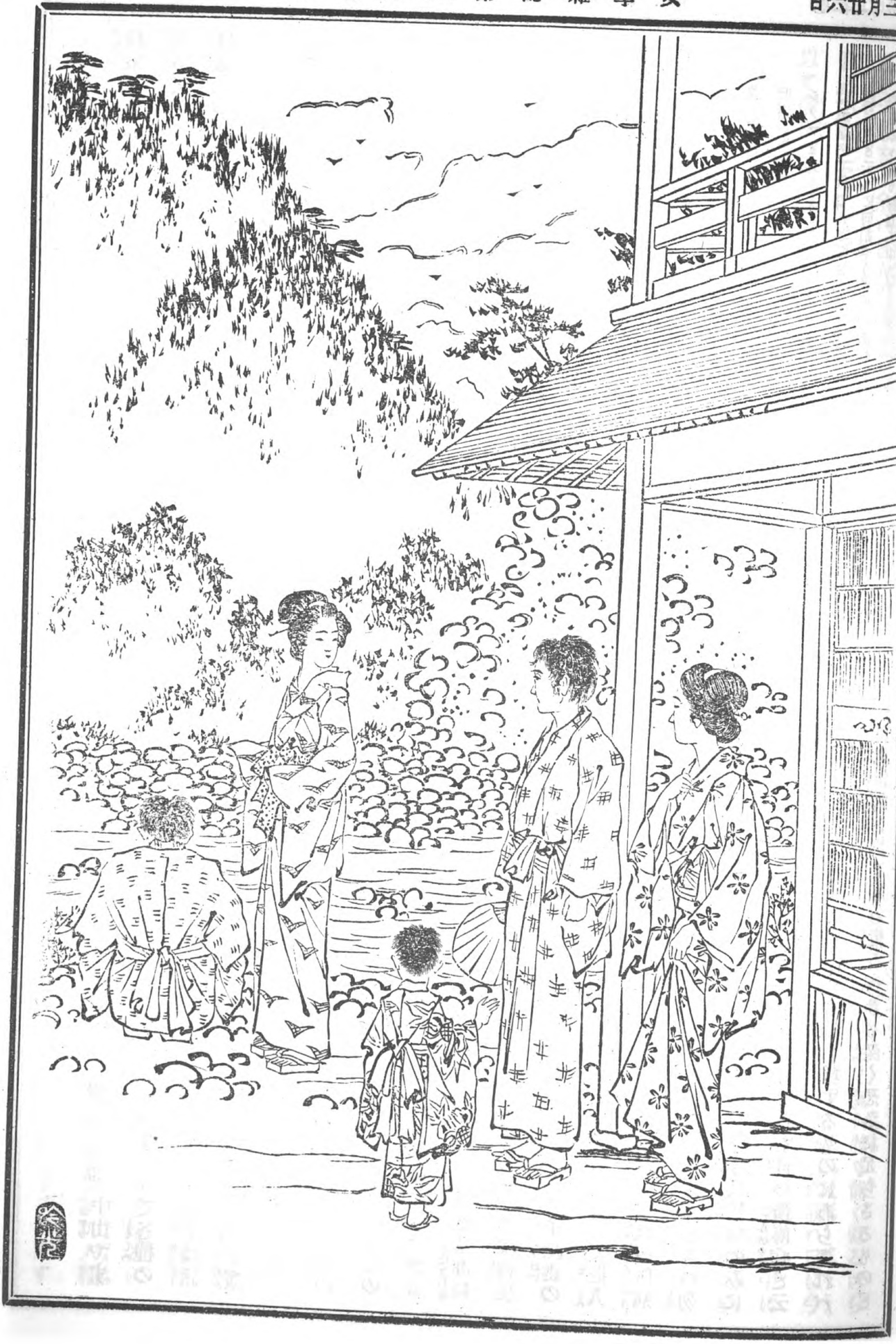
So you think you love me, do you?
Well it may be so;
But there are many ways of loving,
I have learnt to know.
Many ways, and but one true way,
Which is very rare;
And the counterfeits look brightest,
Though they will not wear.

(愛ありと云ふはまことか、きみが愛、めづるこゝろに、
さはありで、思ふしるしの、多けれバ、たゞひとすじの、
まことある、愛のみちこそ、ひと知らで、かりのおもひに、
迷ふなるらん)。

とある最初の段より漸くに聲細り行て他所には聞へがたくありゆきぬ

扨ても當の夕となりて朗らかに聖句を讀上る敎師の前に立ち吾末かけて此婦を愛せん、妾如何の事あるとも此夫に隨はん、と相約して確と握手の禮を行ふユニチン會堂の新夫婦は祝賀の樂につれて靜々と出で丶行くこれより其ほどりの定めたる家にて客を待するとあれば善き程を見計ひて皆々此に赴けば新夫婦は既に服を改めて入口に並び立ち一々來客と挨拶す泥舟に伴はれたるゆりかも亦た快よく進み出で丶兩人の手を交も握りしめ

妾が全心を擧て之を祝し併せて此の喜びと幸との長久なら



んを祈る

雄壯あるゆりかの樣姿を見て掛念する泥舟の傍に温太は歩み寄りて何やらん物語る樣ありゆりかも亦たあい子と樂し氣に打語らひたるが餘の客の數多集り來りて代る〲の禮の煩しければ其儘に談話も中止したりけり

斯て翌早朝新夫婦ハ箱根に向ひて出發したり兼て前夜に約したりけん泥舟ゆりかは優郎を伴ひて亦た翌日後れ走せに來り着し湯本の福住樓に居を共にして婚後の遊を助けたり日すでに山の西に入りて光影たゞ山頂の樹葉にかゝやぐ比は流れの水砂をあらひて清涼のひゞき特更に高く誰が搔き鳴らすらん琴の音は都遠けれバ物めづらしう覺えて哀のいやまずめり河のほとりにそゞありきして最と睦じ氣あるはかの二夫婦にて何も皆昔しの友人あらざるはなし今日は優郎も早所あれたりとて對手なければ父よのみ戯るゝらん餘所の見る目も樂しき

或人文盲なる者を異見して世の交は只た堪忍の二字をよく守るべしと云へば此者首を傾けてカンニンとは四字にて侍らんと云ふかの人笑ひて堪忍はタヱシノブと云ふとよて二字なりと云へばますく奇しみ然らば一字殖ゑたり實は五字にて候はんと云ふかの人怒りてこは愚昧の事かな君が如きは說法も無益なりと云ふに何如やうとも仰あれ私はカンニンの四字を存じ侍れば何如に申さるゝとも腹立ち申さずと答へけるとなり

●寄書

○配偶を撰ぶ者の爲に一言す

豐後國速見郡杵築村　中山やす

當地には婦人仲間よ新聞讀會なるもの設置ありて各種の新聞雜誌を購讀し又毎土曜日に集會して各感ずる所を談話するとあり右一篇及び後の二篇ハ該會の席上に於て夫々演述致したるものあれバ記して編者に寄す（杵築村にて竹中末）

夫れ配偶は吾人の大禮あり一生中の快不快子孫の賢愚一家の興亡之に由て分るゝ處たり利害の關する豈是より大あるものあらんや然るに世人配偶を撰ぶに當て是等の事に心附かざるにや之を輕々しく看過し去るもの少からさるは不注意も亦極ると云ふ可し彼の徒に容色に由て人物を取捨するものは言に足らす殊に容色を愛するの餘菜顏瘠格女子の如き男子幽靈の如き女子を以て最上人物とするか如きものは法外として世人之を撰ぶに當てハ如何なる事に着眼するやと云ふに只遺傳病の一事に止まるもの丶如し一身一家の上に就て言ふときハ勿論遺傳病も甚だ恐るべきものに相違なしと雖も只無病のみにては未だ以て一家の福祉を全ふするに足らす且つ遺傳病と云ふと雖ども百人か百人悉皆其病毒を發するものにあらされバ余は遺傳病を以て寧ろ懼るへきも深く恐るに足らさるものと

断定するなり余ハ世人の該病を以て撰擇の要點となすハ亦一理あることとして深く之を咎めすと雖とも世人が宜しく取て以て撰擇の要點となすべく寧ろ遺傳病の注意にも劣らさるもののあるを告げんとするなり他なし智性の遺傳是なり智性の遺傳たる事ハ當時學者の論定する處にして爭ふ可からさる事實なり試に見よ各人心意の發達に遲速輕重の別あり又各人一種特別の氣質を保有するを以て之を教育して完全の人物たらしむるにハ著しく難易の別あり其甚しきものに至てハ到底人力を以て完全を得せしむること能ハさるものあり嗚呼世人好配偶を得以て愉々快々の中に一生を送り子孫の賢良なるものを造出して家名を擧げんと欲せば宜しく當人に如何なる遺傳の智性あるかを探究せざる可らざるなり或は曰く世人は専ら門閥を尊貴するにあらすや元門閥なるものハ祖先に英俊の人あり其の功に由て得たる地位なれハ智性の遺傳に於ては此上なきことにて世人の此に至る偶然にあらさるなりと夫れ今日世人の門閥を重するハ如此の深意に出るにあらず全躰我國には人設門閥の風甚だ盛にして權力の集る處なるか故に世人の希望専ら此點に傾きたるなれとも爾後人設門閥の勢漸く衰へ自然門閥即智惠の勢力之に代り智惠の後にハ金力集り金力集りて智惠益加り其勢たる駸々乎として何物も能く當る可らざるハ明白の理なりされハ世人の尊重する人設門閥ハ已に今日に價なきものと云ふ可し故に余ハ世人をして此大勢の中に驅け出て敢て後れを取らざらしめんことを欲すれハ身の程をも省みす一筆の勞を執りたるなり

○癩疾を滅するの策

同前　杵築ふく

我國の輿論ハ改良説を以て充たし歐米諸國の文明を目標とし萬事之に倣ひ之に化せんと企つる其中には左程價のなき改良論もあり又言ふへくして行ふ可らさる論も多しと雖とも其最主要急務にして輕忽に附す可らさるハ人種改良論是なり何となれハ不完全なる人種の上には如何なる改良をも加ふる能はざれバなり人種の改良にハ内外雜婚も宜し衣食住の改良も必要なり運動苦樂を節にするも欠く可らさることならんと雖とも差し當り玆に吾人の注意を免る可からさるものあり彼遺傳病たる癩病是なり今日癩病をして其根を絶しむる醫術上の發明は未之あらされハ此儘に捨て置くも蔓延の恐れなきや又自然に撲滅すへきやは本論の一大要問なり余を以て之を見るに寧ろ蔓延するも撲滅する如きことあらさるへしと信す抑人種改良なるものは一代に望むへきものにあらす之を子孫に期す

へきものあり今之れを子孫に望むへきものとせば子孫の基本たる夫婦即はち親を撰ばざる可らざるハ見易きことなり然るに當時世人ハ如何して夫婦の撰擇をなすやと云ふに種々の不都合ある中に專ら本論に關係あるものハ癩病の有無に由て婚姻の區域を定むること是なり無疾家より言へハ有疾家を捨て他の無疾家と結婚すること其の利益たるに相違なしと雖とも固とより人種の改良ハ一身一家の事にあらす一國未來の大計あれは其の小を捨て大を取ることは吾人義務の大なるものなれハ一身一家の利益を顧りみるに遑あらさるなりされハ此癩病をして泯滅に歸せしむるの道を講し且つ此を實行するハ吾人の責任なり然れハ則ち如何せハ此責任を盡すへきやと云ふに務めて有疾家と無疾家と相結婚するの外良策あることなかるへし然するときは病毒代一代より減少し遂に全く消滅に歸するの狀ハ恰も石を水に投ずるとき波紋初めハ高きも遠く四周に擴散するに及てハ全く其跡を認めさるに至るか如くなるへし若然らずして彼是區域を立てゝ結婚する時は無疾家は其害毒を受けさるの利益あれとも有疾家ハ代一代其毒を増し遂に不完全なる人種の一群を形成するに至るへし此不完全なる一群は誠に我日本國に無用の贅物たるのみならす無爲徒食の厄介物なるが故に之を全く除去するの工夫あらば是ぞ國家の厄介役にして至極結構なることなれとも實際斯かる良法ありとも覺えず眞逆古昔スパルタ國に行はれし人爲陶汰の主義も行はる可らされハ是非共彼是雜婚の法に依頼せさるを得ずと確信するなり或ハ今日の如く區域を限りて結婚する時は自然陶汰の理に由り遂に有疾家の跡を絶つに至るべしと論ずる人もあるべし然れとも試に思へ有疾家の系統に係るの人員頗る夥しきことなれハ容易に自然陶汰の法に依頼すべからさるものあり且つ有疾家と雖も均しく是我同胞なれハ之を捨つるハ情に於て忍びさる處あり尤諸有疾家か著しく害毒を社會に與ふるあらは些々たる人情に拘泥せす或ハ斷然人爲陶汰を行ふも已むを得さる次第なれとも癩病に限り殊に開明の妨害たるへき特性あるにあらす何病に拘はらす病は吾人の避けさる可らさるものなれハ特り該病のみを恐るゝにも及ハさるへきなりさりとて此有害の遺傳病を存し置くの不利なるハ明白の事實なれハ之を除去するの法を講するの必用ある所以なり

○改良論者に告ぐ　　同　前　竹　中　す　ゑ

當時新聞紙に演說に日として改良の說を聞かさるなく殊に女子に關係したる改良論最も盛なるを覺ゆ然るに女子社會に於

て如何ある實績を舉げ女子自ら如何ある便利を得しや社會の爲めに如何ある利益を與へしや好しや今日未た其實効を見すとするも他日大に其實益を見るへき種子萌芽は已に地中に在りやと云ふに余ハ未だ之を見る能はさるを憾むあり世人斯く宛然蚊軍の襲ひ來るか如く八釜しく議論を述べ立つるも只影のみにして其實躰を見ずとは怪訝しき次第にあらすや全躰今日の改良論を爲すものは其實を主としたるにあらすして作文の練習演説の稽古として言を改良に托したるか抑又世人の喝釆を得んとするに出るか或は女子の好意を買はんとするに因るか余は甚た之に惑ふものなり中には隨分行はれ難き説もあれとも言へく行ふへき説にして未だ實行に伴はさるもの甚た多く否大抵は皆然るものあれは其罪は之を論者に歸せさるを得ず何となれは世人改良論を主張するからには論者自から一着改良の實を舉げざる可らさる責あるにも拘らす束髮の利洋服の便を喋々主張するもの丶細君にして依然たる闊袖緊帯の衣服に大丸曲の髮を頭に戴くものあればあり斯く改良論を主張する位の人々あれは模範即實行を以て導くにあらされは蛙言蟬語の能く目的を達するに足らさるとハ飽まて承知せらる丶處なるへきに今日の成行を以て見るときハ眞に改良の實行を主としたるにあらさるかの非難を免る可からさる事なり余は女子の身あるも改良に熱心あることは男子に劣らさるものと自信すれども扨て自ら改良を主張し其實を行ハんとするか悲しきことにハ社會の空氣之を許さす好しや社會の空氣に頓着せすとするも斯る際には一層多くの勇氣と智識を要することなれは到抵妾等女子の力の及ふ處にあらさるなり願くは男子諸君一ハ弱を助くるの義務あるを思ひ一ハ女子の善きは即ち男子の善きと謂ふに心を置き着々改良の實効を擧ぐる樣助力を賜はらんことを

新報

○大學英語會討論　帝國大學の英語會に於て女權論の事を引續き討論ありたる趣は前號に報じ置たる如し其際雙方の主論者が辨ぜられたる英語の議論を大畧左に譯出して當夜の模樣を示す

論題　歐米婦人が社交上に有する特權を移して全く之を日本婦人に與ふるの利害　(第二回)

消極の主論者木内重四郎君先づ立ちて論辨さる丶やうは余今ま數分の間茲に吾論を辨ずるの榮譽を受るに當り反對に在

る有識の諸紳士に對して其の煩はしき勞力を執り玉へるとを謝せざる可らず然るに只悲しむべきハ其議論文學上の香はしき花ともならず亦ハ哲學的の價なる果ともならざるの一事になり然れバ余ハ玆に彼の人々の論辨の基礎と相成居る部分を擧て其の甚だ論理に適はざるとを摘示せざるを得ず故に先づ積極の主論者が陳べられたる理論につき一言せんに其理論は概括して左の短簡なる立論となすを得べきか曰く日本人は万事に付き歐羅巴の風を採らざる可らず然るに日本の婦人は亦万事に付き日本の男子と同樣になるべきなれバ日本婦人ハ又万事に付て歐羅巴の風を採らざる可らずと之は實に正當にして且つ確定したる論法と見做すべきか先づ日本の紳士ハ頭より爪先に至る迄で英國若くは佛國の紳士の如くなるべしと云ふの議論既に定りたるや又日本の男子たり紳士たるの資格ハ凡て歐羅巴の紳士たり男子たるの風を代用するが爲に全く放棄すべしと云ふは必ず爲すべきの運命なるか否な二千年來の結果たる我國の風俗を擧て西洋より吹來る暴風大嵐の爲に拂ひ去らるゝとは遂に出來得べきの事なりや何人と雖もかゝる急激なる全變化の决して行るべからざるを知るべし次に又日本の貴婦人たるもの万事につきて日本の紳士と同樣なるべしと云ふ事ハ既に確定したるの事實なりや其決して未だ然らざる由ハ余が前會に於て十分に論辨したる通りなり如此く見來れバ彼論者の前提ハ悉く不明不定にして論法獨立の力なし必竟倒れて地上に落つべきもの也。余ハ又た反對論の助手が論辨ありたる意見に付き一言すべし此論者の前提に云く歐米には婦人たるもの社會上の必要によりて尊敬せらる我國に於ても亦た如此き必要を造出して婦人を尊敬せしめざる可らず然らざれバ日本國の進歩速に中止すべしと然れども玆に謂云る必要を造出するとは抑も何の謂ぞかの下賤なる社會の野蠻なる妻等に有ふれたる山の神主義若くは家内政治なるものに更に西國の拜女主義なるものを加へんと欲するにあるか若し果して然らバ之ハ我々の社會にハ全く適合せざるものなり論者ハ斯て論點を二途に分ち一は哲學上よりし一は近代開化の傾向よりして尚ほ論辨ありたり之れ論法の宏壯至美なる所ならんが論者ハ第一の所云る哲學上の意見に關して申さるゝやう埃及、希臘、羅馬等の如き古代の開化が皆流星の如く失せ去たるハ必竟此等の國民中に婦人を尊敬するの風あらざりしがゆへ也と此論者の大きやかなる眼ハ歷

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

史上に隠れたる寶物を見出されんとて餘り鋭敏なりしが如し實に吾等ハ此の博識なる紳士に依りて彼の羅馬、希臘、埃及等の衰滅したる理由の新解釋を得たるものあり然し此論者に取りての不幸なるハ一汎の歴史家及び著名の記者達ハかゝる事實を擧て彼の古代の諸國民が衰亡したるの單なる元因とハなさず又其重なる原因とも爲ざることあり（未定）

○京都看病婦學校　京都在留の醫博士ベレー氏ハ同地に看病婦學校を設置せんと有志の人々に謀りしに賛成の慈善者多く三條公を始め京都、大坂、神戸等の有志者より義捐せし金千圓以上に及びたれバ先づ是にて烏丸西へ入る上長者町に二千餘坪の土地を買入たるに外國人（重も米國人）も日本人が斯く迄に慈善の擧あるを喜び其校舍（凡そ四十名計を入るゝ見込）附屬病院、教師の住宅等を寄附することに決し已に建築の用意に取掛り又看病學に熟練の聞えある米國婦人ミス、リチャード女子ハ此擧を聞き自ら教授の勞を執らんと態々渡來せられ万事好都合に運びたりと云ふ併し此上尚幾多の資金を要するとの事なれバ追々慈善家の賛助を得バ其開設を見るの日も一層早きに至るべしとの事なれバ本社に於ても右義捐金の募集に盡力す有志の方は多少に拘ハらず惠送あらんことを乞ふ

○婦人工藝會　此度松浦滿子、世良田會代子、唐澤里子等の發起にて題號の如き會を牛込區市谷仲町卅九番地に開設せられたり教員は櫻井女學校教師ツルー氏及び手島荒二氏、加藤久女史等にて編物料理禮式等を教授せらるゝよし今同會の規則を得たれば左に掲ぐ

第一條　本會ハ婦人女兒等を集め西洋編物仝料理法仝禮式讀書算術洋服裁縫等を學習する所とす

第二條　會日は毎月土曜日と定む

第三條　會員中より幹事二名を撰み諸務を整理せしむ但期限ハ壹ヶ年とす

第四條　入會のとき創業費として金壹圓毎月會費として金五拾錢を納ると但一家にして數人あるときハ其一人此責任を負ふ者とす

第五條　單に編物のみを學びたきものハ創業費及會費を要せず月謝金拾錢を納むべし

第六條　會員ハ毎回二名まで其父兄良人親友等を伴ふて晩食に臨席するを得るものとす

第七條　臨席者ハ會食の榮を得るも其實費ハ自辨たるべき事

第八條　晩食の實費ハ毎回一人に付拾錢以上二拾錢以下たるべきとものす

第九條　食後會衆の爲め一名の辨士をして基督教に關する道德及學術の演説をなさしむ

第十條　招待したる辨士にハ其勞を謝するため晩食を饗す

第十一條　會員たるものハ成べく日曜日にハ本會に設けある日曜學校に出席すべし

第十二條　教員ハ勿論會食を許されたる者の中有志の者ハ更々有益なる談話をなすことを得るものとす

第十三條　編物料理禮式等ハ一ヶ年を以て終業の期とす但讀書算術裁縫等ハ其期限を豫定し難し

第十四條　上文の如く定むと雖とも會員の協議により增減することあるべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○成立學舍の女子部　神田駿河臺の成立學舍にてハ今度同所袋町九番地へ女子部を設け外國婦人三名、本邦婦人及び學士二十餘名を聘し左の學科を教授する由

心理學、論理學(文學士井上圓了氏)英語、和漢語、數學(女子師範學校卒業生井上敬子、加來ツチ子)英語、書學、音學(ミツセス、パイヨー)衛生(醫科大學卒業生二宮誠一郎氏)琴(鳥居波野子)衛生、育兒法(醫學士櫻村清德氏)和漢文、詠歌、修身(棚橋絢子、鈴木弘恭氏)家政經濟、英語(文學士土子金四郎、同中原貞七の兩氏)挿花(中島雅子)英語、算術(楢村米吉氏)英語、裁縫(ミツセス、ウヰルフ)日本習字(植村花亭子)家政(瓜生寅氏)和漢文、日本書學(山崎隆子)英語、唱歌、音樂、編物(松平倉子)植物學(女子師範學校卒業生丸橋光子)日本書學(跡見玉枝)日本割烹法(赤堀峰吉氏、同キク子)理學(理學士飯島晉氏)和漢學、數學(女子師範學校卒業生齋藤田鶴子)裁縫、編物、刺繡(水野八重子)經濟、編物、西洋割烹法(ミツセス北尾)

○岡山通信　岡山縣尋常師範學校にては過日來幼稚保育の傳習を始められ各郡より二三名宛の婦人が入學し居れり其の科目ハ教育學、保育法、博物學、算術、恩物使用法等なりといふ此は追々各郡に幼稚園を開く計畫あるにより其の保姆に宛てる都合にて岡山區中の五小學校にハ既に創立の運ひに至りたりと聞く○岡山尋常師範學校にては來る九月頃より此れまで女子科といひ居たるを擴張して女子師範學校とし改めて女子師範生を募らるゝといふ○岡山私立女學校は從來東京女子師範學校卒業生三名佛國婦人二名にて讀書算術英語佛語編物等を教授し居たるが過日英語受持教師が他縣へ赴きたるにより新たに外國人を聘さんとの協議あるよし又た山陽英和女學校も追々生徒增加し其の他婦人英學舍といへるありて孰れも次第に隆盛に赴むく模樣あり○岡山區第五小學區中の有志者淸輝小學校の首座訓導某等が發起して同區內に婦人協會といへるを起し毎月二回宛區內の婦人を集て婦人に關したること育兒の事などを談話するに毎會百名ばかりも集り某新誌賣捌所よりは女學に關する雜誌を寄附することゝなし漸次盛なる趣　又第一學區にても同樣の計畫ありといふ之に引き換へ某學區にては蹈舞會と名けて月に幾回か午後七時頃より十時前後まで舞ひ躍ることを學校にて始めたり其の音樂は吉備樂にて舞蹈も之に合するものならんが是等は甚だ一足飛かと市中にていふものもあり其の出席の女子は大概十五六より二十歳までといへるが舞蹈よりは何か有益なることもあるべきと竊に謂り○備中國小田郡惣社に婦人協會あり此は餘程整頓したるものと聞きぬ詳しくは次報に讓る○岡山尋常師範學校附屬小學の女生徒は孰れも女袴にて衣服は筒袖にし頭髮は固より束

髮なるが其の初筒袖となりしときハ皆々變なものと市中にて云ひ居たるも此頃はなかく／＼に生徒として他に敬せらるゝ摸様わり此れ體操わるゆゑに此の方が便利ならんといへるより起りしなりとぞ凡そ何事にても始は他の後れたるものに彼此と云はるれど後にハなかく／＼に尊まるゝよふになるものならん束髮と編物は大流行にて商家のものは暫く閣き他はいづれも他に後れぬよふなり然れバ毛糸の賣捌所日々に増し結髮女は常に不平のみなりとぞ跡は追々　（岡山寒香女史報）

○和歌山通信（去る廿一日發）當地にて束髮の流行は日々に盛んになり社會の何たると職業の如何に關らず彼も我もと先を爭ふて束髮に爲す有様なるが茲に面白ろきは番町の藝妓にて我々は時流に伴はれ斯く束髮になすハ便利と經濟衞生等に基くとは言へ唯頭部に限り洋風を學ぶも身に和服を着るは恰も坊主に上下を着せたると一般にて且束髮の顏に紅白粉を着け客席に侍るに「ヘイ今晩は」杯と日本語を使ふが如きハ甚だ不躰裁なれバせめてものことに紅白粉を廢し時候の挨拶と酒席に用ふる器具及び飲食物位ハ英語を用ひたしと或る老妓の發議に依り一同賛成の上此程より素顏に改め且つ英語の稽古を始め居る中又右藝妓の中にて先日洋服注文の爲め態々大坂へ赴きし者二三名ありしと其他當女子高等小學校の敎員等にも近々洋服に改めんと協議わる由にて束髮の流行に連れ洋服の流行、英語の流行は追々盛んなる有様なり又當地の女子中に女子職業の論盛んなるより編物等の敎授所は日々に增加し現に港町二十三番地にある西洋毛糸編物傳習會の如きは入會者の多きより自然敎塲に狹隘を覺え最早入會者を謝絶せる程なり今同會の規則を聞くに同會は毎土曜日の午後一時より四時迄敎授し敎師五名世話人數名ありて月謝ハ金十錢、束脩ハ金二十錢なりと

○將校の妻女　仙台鎭臺將校の妻女達は此程より米國敎師を同地の偕行社に聘して英語を學び且つ毎月四回宛洋食調理法の傳習をも受くる由

○婦人改良會　遠州掛川驛の有志者ハ今度婦人改良會と云ふを組織せしに同盟する婦人多く盛大に赴むくの見込みありと

○久留米婦人協會　同會の組織會は去十三日正午より同地日吉町日吉神社境内にて開く筈なりしも都合により通町八丁目裏なる梅野氏の宅に開會せり當日來會せし久留米市街及び近郷有志の令閨令孃等二十餘名に及び同會規則を決議し投票に

て幹事三名を撰みしに平井ナミ、石野ミノ、星野フサの三子當撰し了つて同會將來擴張の談話等あり午後四時頃退散せし由（去る十九日静岡通信）

○京都府高等女學校　同校にてハ今度洋服裁縫の一科を加へ英語科と合せて五十名の生徒を募集せしが目下其志願者非常に多しとの事

○大坂府高等女學校　同校にてハ去る十八日午前裁縫專修生徒の卒業證書授與式を行はれ校長大原近義氏及び教諭三宅彰氏の演說等ありたり當日證書を授與せられたる卒業生徒ハ都合六名ありし

○産婆講習場　愛知縣知多郡にハ産婆講習會なるものありて定時集會し來りしが今度別に産婆講習場を同郡半田村に設け去る十八日其開場式を擧行せり同場ハ新たに内務省の免許を受け開業せんとする者の爲に特に設けたるものにて已に入塲せし生徒十餘名あり教師ハ産婆講師永井靜子なりと

○青森婦人會　同會ハ去る五日午後一時より青森なる同縣尋常中學校樓上に於て開きしに官吏教員紳商の妻女三十餘名來會し先づ役員を撰擧せしに會長にハ鍋島夫人、幹事にハ森夫人千家夫人が當撰し了りて尋常中學校々長關輪正路氏の演說及び石川副典獄の令孃久子の祝文等あり後談話會を開きて解散せりと又同會ハ毎月一回宛開會の積なりしが其にてハ不足なりとの說多により以來ハ毎月二回宛集會する事となりき

○婦人義捐會　山梨縣甲府櫻町の基督教會堂内に於て去る十七日より三日間開きたる婦人義捐會の景况を聞くに同會の出品物ハ何れも同地基督教信徒の義捐に成りたるものにて小供の手袋、帽子、涎掛、シヤツ、針刺、肘蒲團等の類より婦人の帶地、人形の衣裝、毛糸の編物、座蒲團等に至る迄凡そ三百五六十種ありたり

○淑女館　本所横網町にある同館にては毎土曜日に生徒方の演說あるところ本日は午後一時より別に大演說會を開き公に傍聽せしめらるべし（鈴木峯子、報）

○和漢對譯叙事文範　宮崎世顯氏著に係る同書上卷一部寄贈せらる此卷は大磯のトラ土岐賴員等七人の事蹟を叙したる曾我物太平記類の文を漢譯したるものにて拙堂の文話以來初てよく漢譯の味を教ゆるものと云ふべし但し和文を抄して一々評を加へたる處尤も本誌の讀者に裨補あらんと知る

○癡人の夢　南翠外史（須藤光暉氏）の戲著に係る同書一部寄贈せらる日、清、及び琉球の關係を寓したる當世風の小說にして讀去る間無限の感慨甚だ切なるを覺ゆ

○通俗飲酒効害論　一名酒客壽命の手綱は富松郁三郎氏の著なり此頃其一部を寄送せられたるを見るに酒の性質効用等を說いて遂に其用法及び消毒の術に及び専ら節酒の道を敎へて酒客の壽命を案内するにあり

●正誤　前號新報欄内高等女學校講演の筆記中穂積氏とあるは櫻井錠治氏の誤なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

本部今般外國貴婦人三名及左ノ各學科專門ノ本邦貴婦人、學士廿餘名ヲ聘シ左ノ學科ヲ敎授ス有志ノ貴女ハ來ル廿八日迄ニ御申込アル可シ　但シ來四月一日始業

修身、和漢文學、英文學、理學、心理學、衛生(生理、健全、育兒・看病)、家政、經濟、裁縫(和洋)編物、刺繡・押繪、組糸、唱歌、音樂(和洋)、圖書(和洋)、插花、茶湯、割烹(和洋)、運動、

廿年三月　駿河臺袋町

成立學舍女子部

教育書專賣所廣告

井上圓了先生著述

倫理通論

全二冊 一冊定價 金七十錢

近來百科の學術概邦人の採用する所となり整正の方法によりて之を研究するの風大に行はれ來りしより其思想は日に緻密に赴き諸學共に曖昧なる研究法に滿足せざるに至れり殊に倫理學の如きは從來學術の基礎確固ならずして諸家論ずる所甚區々たりしより世の學者皆其不備を責め敢て深く之を研究する者なきに至る當路も亦深く之を憂へて完全なる倫理學の基礎を立て百家の說を綜該し一理を以て之を貫き偏ならず頗ならず最も正確なる書を作り之を師範學校中學校等の敎科書に供し從て全國の人をして之を讀ましめんことを切望するに似たり然れども世上未だ能く此目的に協へる書を作りたる者あるを聞かず蓋其事極めて難く尋常人の一朝にして企望すべきにあらざればなり井上先生茲に慨する久し數年以來の研修する所により遂に一書を出して倫理通論と名け以て目下の急需を救はんとせり其論の正確なる記述法の整然たる實に能く以上の目的を達したるものと云ふべし今版令請ふて之を出版す江湖諸君幸に購覽して此書の價値を知り玉へ

東京下谷區練塀町十四番地

普及舍

每月三回發兌

KYOIKU ZASSHI.

教(けふ)育(いく)雜(ざつ)誌(し)

三月十五日發行第廿八號目錄四十一件

●教育雜誌の一周年●官令摘錄〔二件〕●學校の訓練●書籍の撰擇●動作上身躰變化の原因●光の話幷に圖〔承前〕●植物の分類〔承前〕●知識の大區別〔承前〕●傳記實錄の譬喩●水の成分〔承前〕●文法譯義〔第二十六〕●蚊の話幷に圖●アーヴィング、ワシトンの傳幷びに肖像●和歌八首●今樣二首●俳句●詩八首●文一篇●不學に對する戰鬪●盜賊の花婿の話幷に圖●隱語〔九件〕●第貳拾五號隱語の解●筭算雜題〔二件〕●第貳拾五號筭算雜題の答●學事質問〔三件〕●第貳拾五號學事質問の答●復文〔六件〕●第貳拾五號復文●フレデリック、ウイリアム一世の事幷ニ圖●一朝の怒に君臣を忘る、勿れ幷に圖●唐詩講解〔第二十八〕●孝經講解〔第二十五〕●西洋習字の心得●新聞書狀受取函幷に圖●西洋遊戲〔三件〕●墨汁を製する法●紙硝子を製する法●奇車の話幷に圖●中外雜報〔二十七件〕●廣告●●附錄英學獨修〔一〕●讀本獨學●地理書獨學●會話獨學●萬國史獨學●對譯文範〕

○注意〔この雜誌は総ルビ平假名附にて何人にも讀み易し前金割引十回分七拾五錢二十回分一圓四十錢〕

定價一冊八錢

發行所　東京北豐島郡金杉村第貳百六十三番地

贊育社

基督教新聞

第百九十號　三月十六日發兌

●(一)喜ぶべき名難(二)日本に於て基督敎の進歩●敎報數十件●論說(一)人物とある修業、特に我等青年の心得(二)社會の組織及び人の職分●雜錄(一)女傑エリザベス、フライの略傳(其十)父の墓前に在て聖靈に感ずる事及び一片の赤心諸牧師敎師を感泣せしむる事(二)歐洲諸國宗敎改革の顚末(其十一)佛國の宗敎改革●寄書一致論に關する書翰●雜報●英文敎報●廣告

每(水曜日發兌)一冊定價三錢府外郵稅一錢

東京々橋區瀧山町六番地

警醒社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

拙者儀自今專ラ東京教育社ノ事務ニ從事仕候間一層厚キ惠顧アランヿヲ請懇ス

東京本鄉區元町一丁目三番地
東京敎育社長 日下部三之助

轉居

磐城國楢葉郡木戸驛
永井屋方
蘆野潤三郎

●義捐募集廣告

千葉縣上總國夷隅郡上布施村竹永志ほ女は寶曆年代の人なりしか孝養殊勝の餘り時の領主神尾氏より恩賜等ありしは房總志料南總珍宦版孝子傳の三書に詳かなり生等如斯孝子の湮滅せんとを恐れて爰に其擧を勸して萬世に傳へんと欲す江湖の君子義捐を吝む勿れ

明治廿年二月
千葉縣上總國夷隅郡上布施村貳百廿八番地平民 榎本與六郎
仝村百七十二番地平民 井上佐義夫

○右取次場所 東京日吉町八番地 女學雜誌社

○京都看病婦學校

は內外慈善有志家の寄附を得て此度愈々設立する運びに至り候へ共未だ十分の資力なきより猶ほ諸方慈善有志家の寄附に預り度趣附ては**右學校へ寄附**被致度御方は弊社に於て御取次可申上候間此段此に廣告す

四方有志諸君御中

女學雜誌社

●無謝儀詩文歌添削

但返稿郵稅は御送附有之度候

且又多少に關らず謝儀御送被下候分は特別丁寧精密に添削可致御名作は悉く本社發行の弘城新誌に掲載可仕候也

陸奧弘前代官町七十一番地 弘城隂社

發兌					
三月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
四月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	
六月。	四日	十一日	十八日	廿五日	

定價			
一冊。五錢	郵稅。一錢	(但府內無郵稅)	
十冊。四十八錢	郵稅。十錢	(同前)	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會合會等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但ー紙面半頁分の廣告を藏する每に右雜誌十部の注文を要ー以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行	一回	(廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但ー不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の事類は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなー且つ本誌に批評すべー

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町開々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新段町頁明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○東京本鄉四丁目文壽堂○橫濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原緣町石壽堂○上州高崎田町燠平堂○勢州松坂家里初枝

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō.

發行所
東京京橋區日吉町八番地
本局 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

上候間此段此に廣告す

女學雜誌社

四方有志諸君御中

無謝儀詩文歌添削

但返稿郵税丈は御送附有之度候

且又多少に關らず謝儀御送被下候分は特別丁寧精密に添削可致御名作は悉く本社發行の弘城新誌に掲載可仕候也

陸奥弘前代官町七十一番地　弘城唫社

○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所

本局　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豊

遞信省認可

拙者儀自今専ラ東京教育社ノ事務ニ従事仕候間一層厚キ恵顧アランヿヲ請懇ス

東京本郷區元町一丁目三番地
東京教育社長　日下部三之助

轉居　磐城國楢葉郡木戸驛
永井屋方　蘆野潤三郎

● 義捐募集廣告

千葉縣上總國夷隅郡上布施村竹永志ほ女は寶暦年代の人なりしか孝養殊勝の餘り時の領主神尾氏より恩賜等ありしは房總志料南總珍官版孝子傳の三書に詳かなり生等如斯孝子の湮滅せんとを恐れて爰に其與を勸して萬世に傳へんと欲す江湖の君子義捐を吝む勿れ

千葉縣上總國夷隅郡上布施村貳百廿八番地平民　榎本與六郎
明治廿年二月　仝村百七十二番地平民　井上佐義夫

○右取次場所　東京日吉町八番地　女學雜誌社

○京都看病婦學校は内外慈善有志家の寄附を得て此度愈々設立する運びに至り候へ共未だ十分の資力なきより猶ほ諸方慈善有志家の寄附に預り度趣附ては右學校へ寄附被致度御方は弊社に於て御取次可申上候間此段此に廣告す

四方有志諸君御中
女學雜誌社

● 無謝儀詩文歌添削　但返稿郵税丈は御送附有之度候

且又多少に關らず謝儀御送被下候分は特別丁寧精密に添削可致御名作は悉く本社發行の弘城新誌に掲載可仕候也

陸奥弘前代官町七十一番地　弘城唫社

發兌

三月。五日　十二日　十九日　廿六日
四月。二日　九日　十六日　廿三日　三十日
五月。七日　十四日　廿一日　廿八日
六月。四日　十一日　十八日　廿五日

定價

一册。五錢　郵税。一錢（但府内無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢（同前）
半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢
一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

廣告

一行　一回　前金拾錢（廿七字詰）
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町嚴々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○同日本橋區新錢町眞明堂○同神田區佐柄木町東海堂○同本郷區元富士町盛春堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポート○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町○虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緣町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō.

發行所　東京京橋區日吉町八番地
本局　女學雜誌社
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY